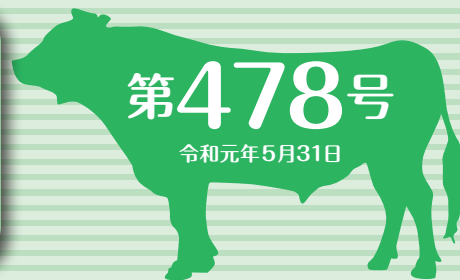


畜産茨城

第478号

令和元年5月31日



目次

第48回関東甲信越酪農青年女性会議 酪農発表大会が開催される	1	平成31年3月市況	8
平成31年度畜産施策方針と重点施策	2	肉用子牛生産者補給金発動状況	8
新任あいさつ	4	平成31年4月市況	9
酪農体験・畜産物加工体験のご紹介	6	牛マルキン発動状況	9
		牛マルキン発動状況	9
		アフリカ豚コレラの侵入防止対策を 徹底しましょう	10

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人茨城県畜産協会
電話 029 (231) 7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／佐野 治

第48回 関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会



平成31年3月19日(火)・20日(水)に、水戸市「ホテル テラス ザ ガーデン水戸」にて関東甲信越酪農青年女性会議主催の『第48回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会』が開催されました。

当県からはひので酪農の米山淳史さんが、経営発表の部において「チャレンジ!! つねに前へ～良質な自給飼料の二毛作で高泌乳を目指す～」という

テーマで発表を行い、農林水産省関東農政局長賞を受賞しました。

米山さんは、経営発表の部の関東甲信越ブロック代表として7月11日(木)・12日(金)に鹿児島県にて開催される『第48回全国酪農青年女性会議酪農発表大会』に出場いたします。

茨城県酪農業協同組合連合会

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立てられています

平成31年度畜産施策方針と重点施策

茨城県農林水産部 畜産課長 鴨 川 修

【現状と課題】

この度の定期人事異動により、畜産課長を拝命いたしました。本県畜産の振興に尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、本県の平成29年畜産産出額は、1,336億円と平成28年対比106%と順調に増加しており、本県の農業産出額の約27%を占める基幹産業となっております。

一方、畜産を取り巻く情勢は、高齢化による担い手の減少や資材価格の高騰等による生産コストの増大、少子高齢化に伴う国内市場の縮小等により、本県畜産を取りまく情勢は厳しさを増している状況です。

また、平成30年12月にはTPP11協定、平成31年2月には日EU・EPA協定が発効するなど、様々な国や地域との経済連携協定により急速なグローバル化の進展が見込まれます。

こうした情勢に対応するためには、収益性の

向上等による生産基盤の強化やブランド力強化による本県畜産物の付加価値向上、畜産物流通の合理化など、国内はもとより海外産地にも負けないよう本県畜産の競争力強化を図る事が大きな課題となっています。

また、平成30年9月に国内では26年ぶりとなる豚コレラが岐阜県で確認されたほか、海外では平成30年8月にアジアで初めてとなるアフリカ豚コレラが中国で発生し、その後もベトナムなどに感染が拡大していることなどから、引き続き家畜伝染病の発生予防と防疫対策に取り組んでいくことが重要となっております。

さらに、霞ヶ浦の水質低下や都市化による混住化が見られる中、臭気対策や環境負荷の削減など周囲の環境と調和した畜産業の確立が求められており、今後も畜産農家が安心して経営に取り組んでいくための対策が求められております。

【対応方針】

こうした状況を踏まえ、県では、国内外の産地間競争に打ち勝ち「儲かる畜産業」を実現するため、平成30年11月に策定した新たな総合計画に基づき、畜産経営の規模拡大等による収益性向上や和牛の生産拡大、酪農経営の体質強化などの生産基盤強化のほか、常陸牛の更なる輸出拡大、常陸の輝きをはじめとした銘柄畜産物のブランド力強化、HACCP等に対応した食肉センターの整備を進めてまいります。

また、食の安全・安心の確保や畜産経営の安定化を図るため、豚コレラや高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病に対する徹底した防疫対策を講じるほか、持続可能な畜産経営の確立

や東京オリンピック・パラリンピックへの県内産畜産物の食材提供などに向け、平成29年夏から運用が始まったGAP取得チャレンジシステムやJGAP認証といった日本版畜産GAPの取組拡大を推進してまいります。

このほか、畜産由来の環境負荷低減を図るため、引き続き家畜排せつ物の適正な管理の指導を進めるとともに、堆肥の新たな流通ルートの開拓などに取り組み、霞ヶ浦流域で生産された堆肥の流域外での利用や家畜排せつ物を減量化する処理装置の整備を促進し地域と調和した畜産経営の確立に取り組んでまいります。

【重点施策】

(1) 生産基盤の強化

事業を活用し、規模拡大等による収益性の向上を支援するほか、畜産関係団体とともに作成したランドデザインに基づき、

米平公共育成牧場や大子町キャトル ブリーディングステーションを活用した和牛の生産拡大、「ローズD-1」を活用した新たなブランド豚肉「常陸の輝き」の生産を拡大

するほか、家畜改良による生産性の向上や
耕畜連携による飼料生産基盤の強化を図っ
てまいります。

(2) 畜産物流通の促進及び畜産経営の体質強化

本県の銘柄畜産物である「常陸牛」、「常
陸の輝き」、「ローズポーク」、「奥久慈しゃ
も」等のブランド力強化を図るため、輸出
を含めた更なる販路拡大や付加価値の向
上、重点的なPR等を行い、銘柄畜産物を
牽引役とした本県産畜産物全体の販売促進
とイメージアップを進めるとともに、国内
外の産地間競争に打ち勝つため、畜産経営
安定対策の活用による畜産経営の体質を強
化します。

(3) 家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産

家畜伝染性疾患の発生やまん延防止を図
るため、飼養衛生管理基準の遵守を徹底す
るよう指導を実施するとともに、豚コレラ
や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝
染病の万一の発生に備えた危機管理体制を
充実してまいります。また、オーエスキー
病や牛白血病の清浄化対策並びに動物用医

薬品の適正使用を推進するとともに、死亡
牛の牛海綿状脳症検査を継続することによ
り、食に対する安全・安心を確保します。

(4) 畜産環境対策の充実

畜産経営の大規模化や地域的偏在が進み、
環境に対する県民の関心が高まっている
中、環境に配慮した畜産経営が求められて
いることから、霞ヶ浦流域外への良質堆肥
の広域流通や家畜排せつ物の減量化のため
の施設整備の推進に取り組みます。

(5) 試験研究の推進と指導体制の充実

第2期茨城県畜産センター中期運営計画
(H28～32)に基づき、①ブランド力強化を
支える新品種・新技術の開発②環境にやさ
しい資源循環型畜産等を支える技術の開発
③受精卵移植等の先端技術の開発を3本柱
として試験研究を推進するとともに、農業
総合センター及び国立研究開発法人研究機
関等の試験研究機関並びに大学、行政機関、
関係団体、民間等と連携し、家畜生産・環
境保全・飼料生産技術の高度化を進めてま
いります。

畜産の国際競争力強化対策

農林水産部畜産課

予算額 1,093,597千円 (うちH30当初87,125千円、H30補正101,695千円)

収益性向上に向けた畜産経営体の施設整備、和牛繁殖雌牛の増頭や乳用雌牛の導入を支援するとともに、常陸牛の輸出促進や豚肉のブランド化、食肉流通合理化等を推進し、本県畜産の国際競争力強化を図ります。

◎畜産クラスター

畜産競争力強化整備対策事業【継続】 87,125千円 (H30当初(繰越))

畜産の生産基盤の強化を図るために必要となる施設整備を支援

<実施主体> 畜産経営体等

<対象事業> 畜舎や家畜排せつ物処理施設等

<補助率> 国1/2

◎食肉流通合理化

食肉流通合理化促進事業【継続】 1,000千円

茨城県食肉流通合理化計画に基づきHACCP対応の食肉センター等の整備や合理化
について調査検討

農畜産物輸出拡大施設整備支援事業【新規】 101,695千円 (H30補正繰越)

常陸牛の輸出拡大を図るため、欧米輸出に対応した高度な衛生基準を満たす食肉
処理施設(牛肉)の整備を支援

<実施主体> (株)茨城県中央食肉公社

<補助率> 国1/2以内、県1/4以内

◎肉用牛関連

和牛受胎卵供給事業【継続】 8,649千円

畜産センターに受胎卵供給センターを設置し和牛受胎卵供給体制を強化

・優良な和牛子牛の生産拡大を図るため、優良採卵牛の導入(年5頭×4年)と受
胎卵の供給並びに農家所有牛からの野外採卵の実施

和牛増頭緊急対策推進事業【継続】 7,093千円

和牛子牛の生産拡大を図るため、米平公共育成牧場において農家の繁殖雌牛を預かり
放牧管理するための経費を支援

(1)放牧地における草地の維持(掃除刈り、追肥、追加播種) (5,093千円)

(2)放牧牛の受入、管理業務 (2,000千円)

<実施主体> 茨城県畜産農業協同組合連合会

<対象事業> 入退牧の管理、給餌・給水、放牧地内牧草の維持管理等

<補助率> 定額

◎養豚関連

ブランド豚肉生産拡大事業費【継続】 22,975千円

新ブランド豚肉「常陸の輝き」をトップブランド品として育成するため、肉質分析
や専用飼料の検討など更なる品質向上に取り組むほか、ハイクレードな加工品の開発
や首都圏高級店への販路開拓、全国的な食のイベント等でのPRを実施

◎乳用牛関連

家畜生産性向上対策事業費(乳用雌牛導入支援分)【継続】 11,850千円

中核的な経営体を育成するため酪農家への乳用雌牛の導入を支援

(1)乳用雌牛の導入支援(10,250千円)

<実施主体> 茨城県酪農業協同組合連合会

<対象事業> 乳用雌牛流通のための体制構築、乳用雌牛導入への補助

①地域内流通マッチング、②県内子牛導入、③妊娠牛導入

<補助率> ①1/2、②定額(50千円/頭)、③定額(100千円/頭)

(2)乳用雌牛の地域内継承支援(地域内継承)(1,600千円)

<実施主体> 茨城県酪農業協同組合連合会

<対象事業> 廃業する酪農家の乳用牛を地域内継承するための支援

<補助率> 定額(16千円/頭)(ALICの導入支援対策への県上乗せ)

◎輸出対策

銘柄畜産物ブランド支援事業(うち常陸牛輸出分)【継続】 3,000千円

常陸牛の輸出拡大を図るため、東南アジア等をターゲットにした既存の取引先への

フォローアップ指導や販路開拓のための現地フェア開催、PR等を支援

<事業主体> 茨城県畜産協会

<対象事業> 現地フェアの開催やPR経費等への支援

<補助率> 県1/2

いばきグローバルビジネス推進事業【拡充】 41,751千円

常陸牛のアメリカへの輸出拡大を図るため、流通ルートの確保や販路開拓活動を強
化するとともに、カッティングセミナーや商談会等を開催

◎養鶏関連

強い農業・担い手づくり総合支援交付金【新規】 806,959千円

産地の収益力強化を推進するために必要となる養鶏施設の整備を支援

<実施主体> 畜産経営体等

<対象事業> 鶏舎等

<補助率> 国1/2

◎GAPの推進

畜産GAP導入推進事業【継続】 1,500千円

GAPの取組拡大に向けた指導員の養成、ICTシステムの導入、生産者を対象にし
た研修会の開催等を実施

新任あいさつ

茨城県鹿行家畜保健衛生所長 小貫 登輝夫

この度の人事異動で、鹿行家畜保健衛生所長を拝命いたしました。当所は4度目、9年目の勤務となります。どうぞよろしくお願いいたします。

鹿行地域は全国的にも有数の養豚地帯であり、本県の飼養頭数の約4割を占めています。この養豚を中心とした鹿行地域では、平成26年に豚流行性下痢(PED)の発生による大きな被害があったものの、その後の発生は数件に留まっております。また、オースキー病についても、生産者の努力と市役所、獣医師の方々、関係団体などのご協力をいただき、清浄化に向けて着実に進んでおります。

このような中、特定家畜伝染病である豚コレラの発生が、岐阜県、愛知県で続いており、未だ予断を許さぬ状況で戦々恐々としております。また、他の特定家畜伝染病であるアフリカ豚コレラ、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザについても、韓国、中国など東アジア地域の発生報告をみると、いつ

日本国内に侵入しても不思議ではない状況が続いています。生産者はもちろん、関係者が一体となって、適切な消毒の実施や発生国(地域)への渡航自粛等、病原体を絶対に農場に入れないという緊張感を持つことが必要です。また、万一来て、農場に出入する人の記録、日常の家畜の健康観察、異常畜の早期発見及び届出を徹底するなどの地道な対策を続けていかなくてはなりません。

高齢化による生産者の減少や畜産物価格の低迷など、近年、日本の畜産を取り巻く状況は大変厳しくなっております。しかし、家畜衛生対策はそれを支える柱の一つとして重要です。

私も家畜保健衛生所としては畜産経営の一助となるよう、また生産者の皆様に安全・安心な畜産物を生産していただくため、今後も家畜伝染病の検査業務や飼養衛生管理基準の遵守指導等に努めて参りますので、引き続き関係各位のご支援をお願いします。

新任あいさつ

茨城県南家畜保健衛生所長 佐藤 則子

このたびの定期人事異動により、県南家畜保健衛生所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年9月に岐阜県で国内26年ぶりに豚コレラが発生しました。発生当初は、誰もがすぐに終息するだろうと考えていました。ところが、初発生から7か月が経過しても岐阜県、愛知県で発生が確認されています。野生いのししに感染が広がっていたこと、原因ウイルスがこれまで国内で発生があったウイルスと異なり病原性が弱く、死亡といった重篤な症状が出にくいため、農場にウイルスが侵入しても発見が遅れてしまうことが、対策を困難にしていると考えられています。このウイルスは中国やモンゴル等で分離されたウイルスに近いことがわかっており、海外から何らかの形で国内に侵入したと考えられます。

旅行者や技能実習生など、訪日する外国人の増加する中、海外からの違法な畜産物の持ち込みに対する罰則は強化されたものの、伝染病の侵入リスクは高まっています。豚コレラ以外にもア

フリカ豚コレラや口蹄疫もいつ国内に侵入してもおかしくない状況であることから、畜産農家の皆様には、疾病の侵入防止、早期発見のため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いしたいと思います。

また、家畜保健衛生所で実施している検査について、今年度から精度管理を導入します。精度管理とは、検査結果が正しいものとなるよう、検体の取扱い、検査手法、検査機器等を管理することで、今年度は、鳥インフルエンザ(遺伝子検査・エライザ法)、豚コレラ(エライザ法)、ヨーネ病(遺伝子検査)の検査が対象となります。これまで以上に信頼のおける検査が実施できる体制を整えてまいりたいと考えています。

家畜保健衛生所の業務は、市町村、関係団体、獣医師、そして畜産農家の皆様と協力して、初めて効果的に実施できるものと考えています。日々変化していく家畜衛生の状況に柔軟に対応しながら、今後も業務を遂行してまいりますので、関係者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたしまして、就任の挨拶とさせていただきます。

新任あいさつ

茨城県西家畜保健衛生所長 飯島 知一

この度の定期人事異動により、県西家畜保健衛生所長を拝命いたしました。県西家畜保健衛生所は、本県に就職し最初に配属された課所で、昭和60年から62年までの3年間在籍しておりました。それ以来の勤務となります。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年9月、岐阜県の養豚場で国内においては26年ぶりとなる豚コレラの発生がありました。野生いのししでの感染も見つかり、隣県の愛知県に感染が拡大、さらに長野県、滋賀県、大阪府でも発生が確認されました。(発生状況(4月25日時点):養豚場等での発生22事例(48農場、3と畜場、約8万8千頭)、野生いのししの感染(371頭))

県西地域は、養豚農家数では県内の約30%を占

める養豚が盛んな地域であり、この状況に懸念や不安を感じられている関係者の方々も多数いらっしゃると思います。そこで、本県では、養豚農家等への発生状況の周知や注意喚起に加え、岐阜県、愛知県へ10名の獣医師職員を派遣し、防疫作業等への協力を実施してまいりました。

また、近隣諸国では、鳥インフルエンザ、口蹄疫、アフリカ豚コレラの発生が続いております。

当所では、農場への家畜伝染病の侵入を防止するため、畜産農家へ正確な情報をいち早く提供し、注意喚起に努めてまいります。さらに、農場の疾病対策強化のため、管内全農場を巡回し、各農場の飼養衛生管理基準の状況をチェックするとともに、消毒

の徹底など、農場防疫上必要なことを実施していただくよう、引き続き指導してまいります。

また、万が一、豚コレラ、鳥インフルエンザ等が発生した場合には、迅速な防疫措置がとれる体制を整備してまいります。

なお、オーエスキー病については、管内養豚農家ははじめ多くの関係者の方々のご支援ご協力により、県内でいち早く清浄化を達成することができました。あらためてお礼を申し上げますとともに、関係者と

の良好な協力関係を引き続き、構築してまいります。

畜産農家の方々には、飼料価格や畜産物価格に対する先行き不安、家畜伝染病の発生、環境対策等困難な課題も多々ございますが、是非この難局を乗り越え、健全で安定した畜産経営を継続されますようお願いいたします。

当所といたしましても、皆様の畜産経営の安定に貢献できますよう所員一丸となり取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任あいさつ

茨城県畜産センター長 根本 和彦

この度の人事異動により、茨城県畜産センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当センターにおきましては、畜産物のグローバル化等が進展するなか、畜産の国際競争力の強化への取り組みを目標に掲げた『茨城農業改革大綱』や、昨年11月に新たに策定した『茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～』に基づき、これまでの試験研究に加え①受精卵移植等の先端技術を活用した生産性の向上、②県内ブランド畜産物の付加価値向上にむけた生産体制の強化、③環境にやさしい資源循環型畜産等を支える技術の開発について、着実に推進するとともに、畜産農家のための「儲かる農業」実現に向けて、今後とも本県畜産業の発展に貢献していく所存でございます。

当センターでは、平成29年に受精卵供給センターを設置し、優良受精卵を活用した『常陸牛』となる県内産和牛子牛の増頭対策に取り組んでおります。さらに、肉用牛研究所では、『常陸牛』生産の切り札となる高能力種雄牛の造成に力を入れており、今後とも常陸牛の生産拡大とブランド力強化に努めてまいります。

また、養豚研究所が開発したデュロック種の系統豚「ローズD-1」を交配した本県新ブランド豚肉『常陸の輝き』が、昨年12月から販売を開始しましたが、同研究所では平成30年5月にブランド育成センターを設置し、系統豚の生産や供給が出来る体制を強化しました。今後とも生産農場や、各関係機関と連携を取りながら新ブランド豚肉『常陸の輝き』の生産拡大と、トップブランドとしてのブランド力

向上に向けた試験研究を推進してまいります。

さらに、本県銘柄鶏である『奥久慈しゃも』につきましては、昨年12月に地鶏では全国初となる地理的表示（GI）保護制度に登録されました。

当センターが、奥久慈しゃもの原種鶏を維持し、生産組合に種鶏を提供しており、今後も安定して供給が出来るよう、次世代鶏作出技術についての研究を進めております。

一方、当センターでは、環境にやさしい資源循環型畜産等を支える技術開発を、国の研究部門や大学等と連携して共同研究しており、畜産業における生産性を維持しながら家畜排泄物中の窒素量を削減したり、悪臭低減ができる低タンパク質飼料給与技術、アナモックス菌を活用した畜産汚水中の窒素を除去する技術及びMAP反応によりリンを回収する技術の開発と実用化に向け研究を進めております。

その他にも、当センターは、職員の飼養生産・衛生技術の意識レベルの向上と安心安全へのリスク管理の強化を図るため、平成31年3月にGAPチャレンジシステムに登録しました。

また、平成22年に「酪農教育ファーム」の認証を受けるなど県民の皆様に食育の場として酪農体験や畜産物加工体験の実施並びに試験研究や畜産について広く知っていただくため、年に1回、畜産センター公開デーを開催しておりますので、是非皆様でお越しください。

最後になりますが、今後とも農家の声に耳を傾け、儲かる畜産業の実現に向けて職員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任あいさつ

茨城県畜産センター肉用牛研究所長 足立 憲隆

この4月に肉用牛研究所長として赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

肉用牛を取り巻く情勢は、TPP11の発効など厳しさを増しており、ブランド化による付加価値向上や生産コストの削減などによる一層の体質強化が求められています。このような中、畜産センターでは「中期運営計画」に基づいてブランド力強化を支える新品種・新技術の開発や受精卵移植等の先端技術の開発と利活用及び国産飼料を活用した低コスト技術の開発等を柱とした試験研究を展開しています。

肉用牛研究所は常陸牛生産の基盤となる種雄牛の造成に最も力を注いでおり、昨年度は肉質・肉量に優れた「埼安福」を選抜し精液配布も始まり、注目されているところです。引き続き、肉質や増体に優

れる種雄牛の造成に努めると共に、「常陸牛」生産のために肉用牛農家の皆様に広く活用していただけるよう積極的にPR等を展開し、「常陸牛」の更なるブランド力向上に努めます。雌牛については、ブランドデザインを定めた取り組みにより、県内の繁殖雌牛頭数は4,000頭に達しましたが、さらなる取り組みが求められます。肉用牛研究所では子牛生産増を目指して、今年度から早期母子分離による子牛生産向上試験に取り組めます。これらの研究成果が、本県の牛肉のブランドアップの強化や肉用牛生産者の経営強化に繋がることを願っています。

今後とも、現場のニーズに対応した試験研究に努めてまいりますので、一層のご支援、ご指導をお願いいたします。

新任あいさつ

茨城県畜産センター養豚研究所長 真原 隆治

この度、養豚研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、様々な国や地域との経済連携協定により、輸入豚肉の関税率が引き下げられ輸入量が急増しています。さらに、国内での豚コレラや PED の発生等により、国産豚肉の価格は不安定さを増すなかで、豚肉価格はブランド豚肉よりも一般豚肉の方がより大きな影響を受けています。

茨城県産豚肉が国内外の産地間競争に打ち勝ち、養豚農家の安定経営を図ることができるように、当研究所では高品質な豚肉生産が期待できる、肉質に優れたデュロック種系統豚「ローズ D-1」（筋肉内脂肪含量 5 %）の系統造成を行い、昨年 5 月にはブランド育成センターが完成しました。新たな施設では「ローズ D-1」を維持するとともに、県内養豚農家への種豚と精液の供給を行っています。

「ローズ D-1」は、ローズポークをはじめとす

る、さまざまな高品質豚肉生産への活用が期待できます。さらに、県と団体が協力して作り上げた、新たなブランド豚肉「常陸の輝き」にも活用し、県内豚肉全体のブランド力強化と生産拡大につなげたいと考えています。

その他にも、当研究所では新たなランドレース種の系統造成のために、今年度基礎豚の収集と、第 1 世代子豚の生産をはじめます。新たな、ランドレース種系統豚は、産子数のみならず母豚の泌乳能力や連産性も考慮したものにしたいと考えています。

さらに、大ヨークシャー種の改良や供給精液の活力向上等の課題にも取り組むなど、今後とも、現場のニーズに対応した課題設定に努め、より良い研究を行っていく所存でございますので、関係各位のご指導ご鞭撻をお願いして、就任のご挨拶といたします。

酪農体験・畜産物加工体験のご紹介

茨城県畜産センター 企画情報室

はじめに

畜産センターでは、県民の皆さまに家畜と人との関わり合いについて知ってもらう食育の場として、平成 22 年度に「酪農教育ファーム」の認証を取得しました。酪農体験や畜産物加工体験を通し、「命の大切さと営み」、「牛乳の生産から供給まで」など、畜産についてさまざまなことが学べます。

対象団体

幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校、NPO 法人等及び、一般の団体（10 名以上で団体の規約・代表者の定め等が明確であること）などを対象にしています。平成 30 年度は 1,900 名を超える方に来ていただきました。

また、学校行事のほか、子供会や、公民館などの行事として幅広く受け入れています。

各種体験について

1 酪農体験

酪農体験では、酪農という仕事や牛との接し方などについて学び、体験します。

① 牛へのえさやり

牛に牧草をあげます。子供たちは、最初、牛の大きさにびっくりして怖がっていますが、次第に上手に牧草をあげることができるようになります。幼稚園児でも大丈夫です。



② 模擬牛による搾乳体験

乳頭を搾ると水が出る牛の模型を使って、乳しぼりを体験することができます。



③ 子牛とのふれあい

生まれて間もない子牛に触れることができます。ただし、子牛がいない時もあるのでご了承ください。



2 畜産物加工体験

畜産物加工体験では、牛乳の栄養や、バター、アイスクリームなどの乳製品や畜産物について学び、加工体験ができます。

① バター作り

生クリームが入った容器を振って作ります。小さなお子さんでも簡単に作ることができます。

作ったバターは、その場でクラッカーに塗って食べることができます。80名程度まで受入れ可能です。



② アイスクリーム作り

卵、生クリーム、牛乳及び砂糖を冷やし

ながら混ぜ合わせて作ります。作ったアイスクリームはその場で食べることができます。「濃厚でおいしい」と、子供から大人まで大変好評です。30名程度の団体向けです。



③ ソーセージ作り

ひき肉に香辛料を加えて練り合わせ、それを羊の腸に詰めて作ります。ボイルと真空パックして完成です。コツをつかむまでは、難しいところもあり、意外と力も使います。主に小学生高学年以上で20名程度の団体向けです。



その他の体験や催しについて

以上のような体験の他に、専門学校生の研修やインターンシップ、中学生の職場体験等の受入れも行っております。

また、畜産センターでは、年に1回、畜産センター公開デーを開催しており、今年は10月26日（土）に開催いたします。当日は、動物たちとのふれあいのほか、農畜産物の販売などを予定しております。みなさんぜひご来場ください。

**酪農体験及び畜産物加工体験をご希望の方、お問合せは
こちらまでご連絡ください。**

茨城県畜産センター 企画情報室
〒315-0132 石岡市根小屋1234

TEL：0299-43-3333 FAX：0299-43-6392

※詳細については、茨城県畜産センターのホームページ、Facebookをご覧ください。



平成31年 3 月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
6	一般子豚 ベビー豚	0 224	25,488	19,656	23,147	35
20	一般子豚 ベビー豚	0 238	25,488	23,004	24,579	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	70	865,080	447,120	670,186	294	2,283
		♂	0					
		去計	95	1,061,640	354,240	793,186	314	2,529
	F1	去計	165	1,061,640	354,240	741,004	305	2,429
		経産	3	546,480	90,720	390,600	—	—
	F1	♀	0					
		♂	0					
		去計	0					

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
8	入場頭数	5	0	0	0	1	6	11	0
	成立頭数	5				1	4	11	
	最高(円)	66,960				50,760	70,200	85,320	
	最低(円)	58,320				50,760	38,880	54,000	
	平均(円)	64,152				50,760	52,110	66,076	

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	39	872,640	502,200	714,821	259	2,759
		♂	0					
		去計	46	1,083,240	612,360	837,774	293	2,852
		去計	85	1,083,240	502,200	781,360	277	2,812

食肉地方卸売市場

栃茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉：毎週月曜日、木曜日			
	項目	上場頭数	卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)	屠畜頭数	項目	上場頭数	卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)	屠畜頭数
	畜種	頭数	平均重量(kg)	極上 上 中 並 外 平均	豚 牛			
	豚	11,181.0	78.9	480 462 438 400 340 424	23,064 656.0			
	牛	頭数	平均重量(kg)	5 4 3 2 1	平均単価(円)			
和牛	A	152	462.7	2,804 2,540 2,226 1,611	2,478			
	B	15		— 2,582 1,809 1,193				
	C	10		— — — — 595				
乳牛	A	-	311.4	— — — — —	566			
	B	13		— — — 639				
	C	114		— — — 623 507				
交雑牛	A	22	525.1	— 1,753 1,652 979	1,556			
	B	74		— 1,698 1,589 1,347				
	C	13		— 1,414 1,325 1,103				

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日	畜種	年齢	性別	5, 9, 15, 19, 25, 29			
				頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	7		366,120	33,480	191,469
		♂	137		211,680	21,600	149,560
		去計	0				
	子牛	♀	144		366,120	21,600	151,598
		♂	1		216,000	216,000	216,000
		去計	0				
F1	スモール	♀	1		216,000	216,000	216,000
		♂	0				
		去計	1		216,000	216,000	216,000
	子牛	♀	68		304,560	65,880	258,739
		♂	86		412,560	221,400	326,223
		去計	0				
黒毛和種	スモール	♀	154		412,560	65,880	296,425
		♂	2		189,000	57,240	123,120
		去計	1		335,880	335,880	335,880
	子牛	♀	2		435,240	366,120	400,680
		♂	5		435,240	57,240	276,696
		去計	0				
2歳	スモール	♀	0		594,000	594,000	594,000
		♂	1		594,000	594,000	594,000
		去計	0				
	子牛	♀	2		540,000	433,080	486,540
		♂	1		575,640	575,640	575,640
		去計	0				
2歳	スモール	♀	3		575,640	433,080	516,240
		♂	1		575,640	575,640	575,640
		去計	0				
	子牛	♀	1		575,640	575,640	575,640
		♂	0				
		去計	1		575,640	575,640	575,640

肉用子牛生産者補給金発動状況

平成30年度第4四半期(平成31年1～3月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円／頭)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	531,000	489,000	314,000	161,000	269,000
合理化目標価格	421,000	388,000	249,000	108,000	212,000
平均売買価格	793,300	563,400	337,600	246,000	467,900
補給金単価	—	—	—	—	—

平成31年4月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
3	一般子豚	11	23,976	23,976	23,976	50
	ベビー豚	226	25,920	22,140	24,288	35
17	一般子豚	35	26,028	25,920	25,994	50
	ベビー豚	237	24,624	16,416	22,535	35
26	一般子豚	0				
	ベビー豚	201	29,484	15,768	26,626	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	60	962,280	361,800	707,400	292	2,423
		♂	0					
		去計	85	1,076,760	489,240	804,333	308	2,614
	F1	経産	145	1,076,760	361,800	764,223	301	2,538
		♀	0					
		去計	0					

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
	入場頭数	開催なし							
	成立頭数								
	最高(円)								
	最低(円)								
	平均(円)								

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
	和牛	♀	開催なし					
		去計						

食肉地方卸売市場

株式会社茨城県中央食肉公社

開催日		豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉：毎週月曜日、木曜日					
項目 畜種	上場頭数		卸売価格（枝肉1kg当たり単価・円）						屠畜頭数		
	頭数	平均重量（kg）	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛	
豚	12,434.5	79.2	563	524	502	464	386	483	26,000	802.5	
牛	頭数	平均重量（kg）	5	4	3	2	1	平均単価（円）			
和牛	A	244	273	489.9	2,787	2,463	2,136	1,600	2,511		
	B	24			2,271	2,156	1,713	978			657
	C	5			—	—	—	887			683
乳牛	A	—	134	321.0	—	—	—	—	593		
	B	7			—	—	—	683			591
	C	127			—	—	—	642			532
交雑牛	A	25	109	524.2	1,924	1,825	1,605	1,464	1,597		
	B	74			2,008	1,701	1,588	1,435			—
	C	10			—	—	1,324	1,155			—

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5, 9, 15, 19, 25, 29			
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	2	203,040	119,880	161,460
		♂	89	212,760	21,600	167,376
		去計	3	190,080	141,480	164,880
			94	212,760	21,600	167,170
子牛	子牛	♀	7	292,680	193,320	269,537
		♂	0			
		去計	0			
			7	292,680	193,320	269,537
F1	スモール	♀	59	314,280	171,720	273,112
		♂	84	450,360	270,000	376,586
		去計	0			
			143	450,360	171,720	333,894
黒毛和牛	子牛	♀	0			
		♂	1	540,000	540,000	540,000
		去計	1	564,840	564,840	564,840
			2	564,840	540,000	552,420

牛マルキン発動状況

(円)

期	支払方式	肉専用種	交雑種	乳用種
平成31年3月	確定単価	—	—	74,024.1
平成31年2月	確定単価	—	—	64,769.4
	概算払単価	—	—	60,769.4
平成31年1月	確定単価	—	—	54,378.9
	概算払単価	—	—	50,562.5

(注)

平成26年4月期の補填金交付から、四半期の最終月以外については、補填金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをすることになりました。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)

また、平成26年4月から消費税抜きで算定されています。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

アフリカ豚コレラの侵入防止対策を徹底しましょう

茨城県鹿行家畜保健衛生所

アフリカ豚コレラ（ASF）は、ASFウイルスが豚やイノシシに感染する伝染病で、発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病です。本病に有効なワクチンや治療法はなく、万一発生すれば畜産業に及ぼす被害は甚大なものとなります。

ダニや、感染した動物と接触することで感染が拡大する他、ASFウイルスに汚染された十分に加熱されていない肉及び肉製品を豚が食べることによって感染します。ASFウイルスは自然環境に強く、死亡した豚の血液、各種臓器及び筋肉内に長期間残存し、生ハム、燻製や塩漬けのハム等の中でも5か月以上生存できるという報告もあります。

ASFは昔からアフリカ在来イボイノシシ、イノシシ及びダニに不顕性感染を続けてきた病気で、アフリカに白人が豚を持ち込むまではASFウイルスの存在さえ知られていませんでした。ASFの発生は、アフリカ及び近隣国に限定していましたが、2007年からユーラシア大陸に突如として侵入し、2017年にはロシア、2018年8月に中国で発生が確認されるとまたたく間に全土に拡がり、今年に入ってモンゴル、ベトナム、カンボジアでも発生が確認されています。

動物検疫所は中国で発生が確認された昨年8月以降、中国やベトナム等発生国からの国際便の旅客に対して、検疫探知犬による探知活動、家畜防疫官による口頭質問を行う対象便を拡大し検査を強化しています。また、これらの国からの旅客が所有し、日本の到着空港における動物検疫所の検査で輸入が認められなかった豚肉製品の一部についてASFウイルスのモニタリング検査を行っています。4月11日現在、中国、ベトナムから持ち込まれた豚肉製品28例でASFウイルスの遺伝子が確認されていますが、4月2日、このうちの2例からASFの感染力のあるウィル

スが確認されたと発表されました。

吉川貴盛農相は、同日の会見で「感染力を持つウィルスがわが国の水際まで到達していた。水際対策は極めて重要」との考えを示し、農林水産省は、豚などの家畜がかかる伝染病のウィルスが海外から持ち込まれるのを防ぐため、畜産物の水際対策を強化すると発表しました。

4月22日からは海外からの肉製品の違法な持込みに対する対応を厳格化し、任意放棄の有無にかかわらず、違法な持込みには厳正に対処し、手荷物の中に輸入申告のない肉製品などの畜産物が確認された場合は、罰則の対象になります。

農場においては、農場の衛生管理区域への部外者立入り制限、車両洗浄消毒の徹底はもちろんのこと、ASF発生国からの外国人技能実習生が一時帰国した場合は、再入国時の防疫措置や食品の持ち込みに注意を払わなければなりません。また、畜産関係者の方々には、家畜の悪性伝染病が発生している国や地域へ渡航する場合は、畜産関連施設、市場等への立ち入りや、家畜への接触を避けるようご協力をお願いします。

Quarantine

動物検疫所からの重要なお知らせ

2019年4月22日から

海外からの肉製品の違法な持込みに対する対応を厳格化します。

任意放棄の有無にかかわらず、違法な持込みには厳正に対処します。

- ◆手荷物の中に、輸入申告のない肉製品などの畜産物が確認された場合、罰則の対象になります。
- ◆輸入検査の手続きでパスポートや搭乗券の情報を記録するため、検査に時間を要することがあります。

家畜伝染病予防法により、

輸入検査を受けずに畜産物を持ち込んだ場合には、**3年以下の懲役又は100万円以下の罰金**が科せられます。

農林水産省動物検疫所

肉製品の持込みについて詳細はこちら

わたしたちは人と動物の「これから」を真剣に考えています



森久保薬品株式会社 茨城事業部

下妻市亀崎4011-1 TEL/0296-43-1661

FAX/0296-43-6509 フリーアクセスFAX/0120-436-509

<http://www.morikubo.co.jp>

<http://www.haccp.jp>

茨城県が誇る、霜降り牛肉

常陸牛

ひたちぎゅう



いばらきの高品質豚肉

ローズポーク

茨城県銘柄豚振興会

事務局

〒311-3155 東茨城郡茨城町下土師1950

全国農業協同組合連合会 茨城県本部内

TEL / 029-292-8004

FAX / 029-292-7743

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL/029(231)7501 FAX/029(222)2032

○当協会に対する意見・要望

Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp

○本紙への掲載「催事・各種情報」

Eメール chikusan@ibachiku.com

○ホームページ

<http://ibaraki.lin.gr.jp>